



市内の気になる話題をご紹介します。

8/19-20 仲間と自然に触れ、夏の楽しい思い出に！

市内の小学4年から中学3年までの31人が1泊2日の「下呂市交流キャンプ」に参加しました。年齢や学校が違う普段の生活ではなかなか接することのない仲間との共同生活を通して、自立心や協調性を育ててもらおうと、希望者を募り、毎年夏休みに開いています。市ジュニアリーダーズクラブの中高生30人が運営をサポート。さまざまな活動で仲間との交流を楽しみました。



テントの設営や調理、食事、ゲーム、キャンプファイヤーなどを一緒に行ったことで、すっかり打ち解け合った参加した小中学生＝萩原町山之口、山之口教育キャンプ場

8/27-9/10 伝統漁法で地域おこし「火ぶり漁」で観客を魅了

日が暮れた後に、アユをかがり火の明かりと音で驚かせ、網に追い込み捕獲する伝統漁法「火ぶり漁」が行われました。

地域で伝承されてきた漁法を、地域おこしにつなげようと5年前から観光客向けに実演。

カメラで撮影すると、かがり火の炎が舞いをしているかのような写真を取めることができ、多くのカメラマンが訪れて撮影を楽しみました。

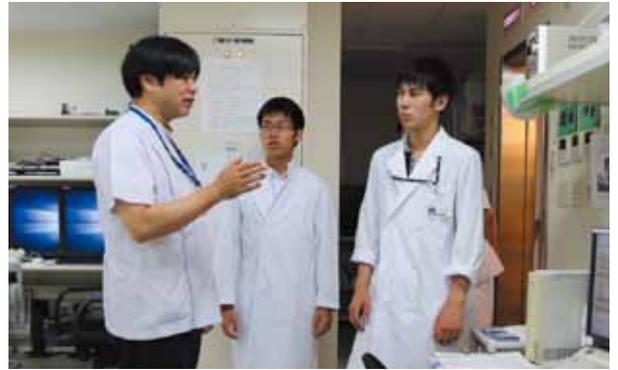


掛け声とともに、竹ざおにつるしたかがり火を振る地元住民の「鮎とり隊」＝馬瀬西村、馬瀬川

8/23-24 医療を守る人材確保のため医学生対象に研修を実施

将来的に市内に勤務してくれる医師を増やす目的で、市が初めて「下呂市地域医療セミナー」を開催しました。岐阜大学と自治医科大学の医学生に参加を呼び掛け、2人が参加。

参加した医学生は、下呂温泉病院、金山病院、小坂診療所を見学し、現場の医師と話したり、実際に働く姿を見たりして、下呂市の地域医療に対する理解を深めました。



院内の見学で、須原院長の説明に熱心に耳を傾ける参加した医学生＝金山町金山、市立金山病院

9/5 長年の感謝を込めて十六銀行が電子看板を寄贈

創立140周年となる十六銀行は、長年の地域からの支援に対する感謝として、電子看板を下呂市に寄贈されました。電子看板は、ディスプレイに文字や写真や動画を表示することができるもので、寄贈者からの下呂市観光振興に役立てて欲しいという意向もあり、下呂温泉合掌村へ設置されます。合掌村では、施設案内や市内観光地の案内などに使用する予定です。



寄贈された電子看板の横で、服部市長（右）に目録を手渡す十六銀行常務執行役員の高橋義信さん（左）＝森、下呂庁舎